

かさじぞう

昔々、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

ある年のおおみそか。おじいさんとおばあさんは、二人でかさを作りました。

それを町で売り、お正月のおもちをかうつもりです。

おじいさんは、五つのかさを持って出かけました。家を出てすぐ、雪が降ってきました。

「あ、お地蔵さまだ。」

雪の中に、お地蔵さまが六つならんで立っていました。

これを見たおじいさんは、

「雪が降って寒いでしょう。このかさをどうぞ。」

といって、かさをかぶせてあげました。お地蔵さまは六つなのに、かさは五つ。

そこでおじいさんは自分のかさをお地蔵さまにあげました。

その日の夜中、ふしぎな歌が聞こえてきました。

♪じいさんの家はどこだ。

♪かさのお礼を、届けに来たぞ。

歌声はどんどん近づいて、おじいさんの家の前まで来ると、
ズシーン！

と、何かを置く音がして、そのまま消えてしまいました。

家の前には、お正月用のおもちやごちそうが山のように置いてありました。

